

激増！地下埋設物事故が3ヶ月間で10件！！

地下埋設物の損傷事故は、10月までは3件と少なかったが、10～12月の3ヶ月間に3件、4件、3件の延べ10件(全体の約17%)発生と激増しています。

12月末時点で既に累計13件となり、平成23年度通年の発生件数12件を上回る、極めて憂慮すべき状況です。

地下埋設物には、河川・道路等の管理・防災業務上非常に重要な施設や広範囲に影響が及ぶライフラインも含まれており、今後地下埋設物の損傷事故の再発防止のため、各現場では「埋設物があるかもしれない」という前提で、①事前確認・調査、②マーキング等埋設物の明示、③慎重な作業の徹底をお願いします。

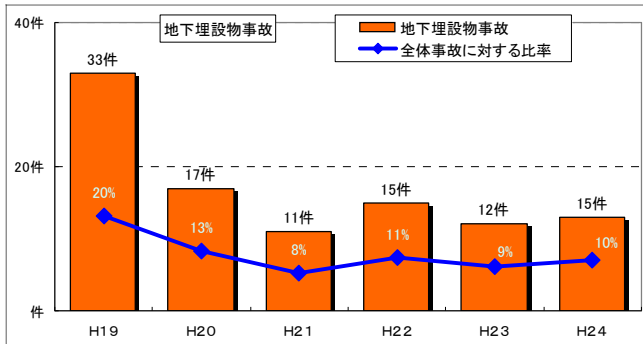


図1 年度別地下埋設物事故件数

今年度の地下埋設物等の事故発生概要

■被災物件の内訳では、水道、通信、電気関係それぞれが1/3程度を占めています。

■作業形態別では、従来大きな割合を占めていた重機等による掘削時の事故(3件)に替わり、**削孔時の事故(7件)が5割以上**を占めています。

■削孔時の事故の内訳では、照明柱等**道路付属施設の建込時の事故が3件**、次に既設建築物の改修に伴う**壁面の削孔時の事故が2件**、杭工事の削孔及び仮設支柱建込時が各1件となっています。

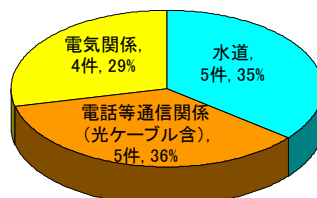


図2 被災物件内訳 (重複事故1件含)

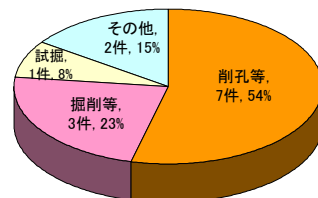
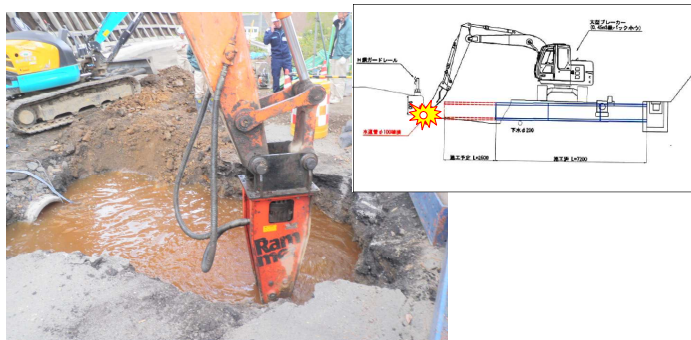


図3 作業形態内訳

事例① ブレーカー掘削中に水道管を損傷



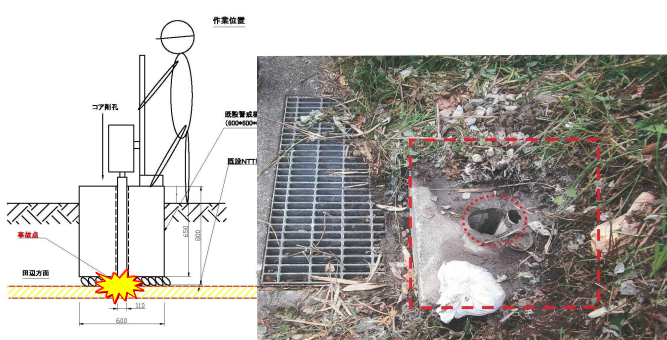
〔事故概要〕

現道拡幅箇所において、横断排水管敷設のためブレーカーにて硬質地盤を掘削中、既設水道管φ100を破損させた。受注者は、水道管の存在は把握していたが、図面情報のみで当該作業箇所では影響ないと思ひこみ、**水道管理者との協議・立会や試掘調査を怠った。**

〔被害状況〕

約6時間にわたり、28世帯に断水が発生

事例② 標識柱のための削孔でNTTケーブル損傷



〔事故概要〕

標識柱建て込みのために既設基礎コンクリートを削孔した際、既設基礎の深さを誤って削孔したため、直下のNTTケーブル3条のうち1条を破損した。受注者は**占有物件についての図面等の事前調査やNTTとの協議・立会を怠っていた。**

〔被害状況〕

約11時間にわたり121回線に影響(不通等)が発生

安全対策の実施におけるインセンティブ

優良工事等施工者表彰(安全対策)

事故等が発生すると、受注者へのペナルティとして受注者の安全管理責任の程度に応じて「指名停止」～「措置無し」等の事故措置が行われ、加えて工事成績評定からの減点等も生じます。

逆に、無事故でかつ、積極的に安全対策に取り組んだ工事(施工者)に対するインセンティブとして、国土交通行政関係者功労者表彰の一環で「優良工事等施工者表彰(安全対策)」を行っています。

優良工事等施工者表彰の受賞者には、総合評価落札方式における「企業の施工能力」の技術評価点に加点がされます。

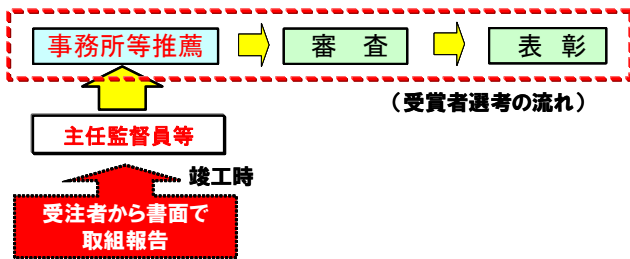
- 工事部門 局長表彰・・・2点
事務所長表彰・・・1点
- 業務部門 局長表彰・・・2点
事務所長表彰・・・1点

●安全対策部門 局長表彰のみ・・・2点

「国土交通行政関係功労者表彰」とは

国土交通行政関係功労者表彰の開催される前年度において、国土交通行政への功績が顕著な個人又は団体に授与されます。

優良工事等施工者表彰の他に、「水門等操作功労者」「河川愛護等功労者」「優秀建設技術者」の表彰が設けられており、部門によっては局長表彰に加え、事務所長表彰も設けられています。



安全対策部門の受賞者選定にあたっては、優秀な成績を収めた施工者の内、特に下の選考基準に該当する、受注者を対象として事務所から本局の選考委員会に推薦し、審査委員会において選定されます。

しかし、安全対策部門の受賞者数は、今年度は3社受賞しましたが、平成18年度以降近年2社以下に留まり、昨年度に至っては該当無し(0社)でした。

現場代理人・監理技術者のみなさん！

安全対策の取り組みを積極的に実施し、無事故・無違反で竣工した現場については、是非その取り組みの内容を書面にて、主任監督員等に実施状況の報告するようお願いします。

主任監督員等発注者のみなさん！

より多くの現場がノミネートされるよう、受注者から報告のあったものだけに留まらず、積極的な推薦をお願いします。

安全対策部門の選考の基準

- 工事の安全に係る諸法令等を遵守し、円滑かつ安全に工事が実施された。
- 工事の実施に際し、安全確保の観点から適正な人材配置等、安全施工体制が図られた。
- 現場内作業員に対し、安全意識の向上を図るための安全教育が適切に実施された。
- 安全訓練等の実施に当たり、その内容、頻度について適切に実施された。
- 安全に係る技術開発及び諸施設等の開発、普及に積極的に取り組んだことや安全パトロール等安全施工に関する活動が特に顕著であったものなど。



平成24年度 「安全対策部門」受賞事例

〔取り組み概要〕

カーブの途中区間で視認性が悪く、比較的に事故が起きやすい箇所における工事において、交通規制の起点部に、視認性が高く、衝突すると前輪が浮き上がり、現場内に突っ込む時間を遅らせる効果がある「とまるくん」(NETICE参照)を配置し、夜間における視認性も向上し、ドライバーからも好評を得た。

また、小学生の国道横断時の誘導を初め、朝のあいさつ運動、通行車両への児童横断走行注意の呼びかけ等を行い、子供の安全に寄与したことにより、小学校より感謝状が贈呈された。

